

# 更級への旅

松尾芭蕉が歩いた

更科紀行街道の今・その28

136

漫画家・絵本作家のすずき大和先生がこのほど絵本「ぼしようさんとおぼすて山の月」(左の写真が表紙)を出版しました。「ぼしようさん」とは、「古池やかわず飛び込む水の音」の俳句や紀行文(奥の細道)で知られる松尾芭蕉のことです。芭蕉は当地の「さらしな

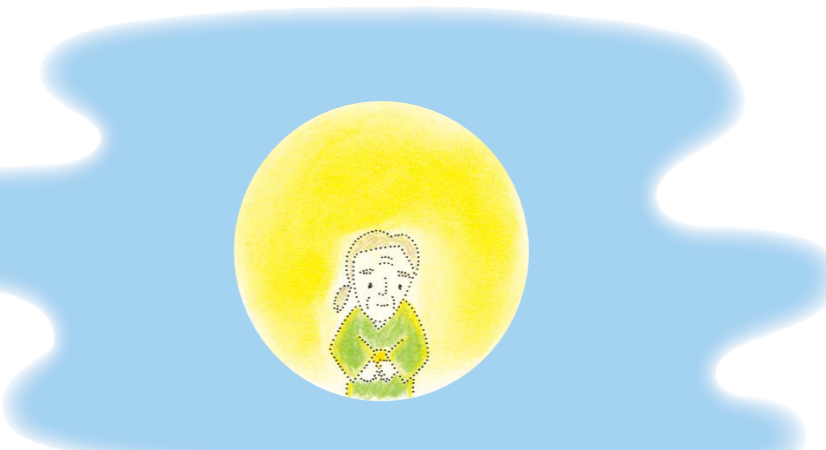
▽教育委員会推薦

更科紀行の内容と当地との関係で最も縁の深い芭蕉の俳句は「佛や姨ひとりなぐ月の友」です。この句は長楽寺(旧更級郡八幡村、現千曲市八幡地区)での観月体験がもとになっているのですが、意味については解釈が難しいとされています。

しかし、この句が長楽寺での最初の句碑「面影塚」の建立につながり、信州に芭蕉の作風が広まる大きなきっかけになったわけですから(詳しくはシリーズ80参照)、この句に正面から向き合わなければ「更科紀行」を読み解いたことになりません。この課題に、空間や間の使い方独自の作風があるすずき先生が迫りました。

「更科紀行は千曲市の宝。形式にもとらわれず自由な心の趣を表明したもので、楽しかった思い出を書き留めたエッセーと言ってもいい。だからこそ、芭蕉の本音があり、魅力的なんです」とすずき先生。

そんな芭蕉の世界に、子どものうちから触れてもらうことが、子



## あこがれだったさらしな・姨捨の月

どものためにも千曲市のためにもなるのではないかとこの発想から、絵本の企画がスタートしました。

物語は、江戸のまちにすばらしい俳句をつくる「ぼしよう」という人がいましたと始まります。ぼしようさんは弟子の「えつじんと「ごんしち」と一緒に「さらしな・姨捨」



の中秋の名月を見るために旅に出ます、怖い体験をしたり、面白いお坊さんに出会います。途中

の街道沿いの風景はもちろん、「さらしな・姨捨」の眼下に広がる千曲川、稲穂、さらに月が現れる鏡台山の光景が大胆な視点で色彩豊かに描かれます。

そしてぼしようさんは念願の姨捨山に到着すると、特別な人に出会います。それは俳句の道に精進するあまりに死に目に会えなかつた……。芭蕉が当地での月見に込めた思いが

分りやすく感動的に描かれ、親子祖父母とお孫さんで読んでほしい内容です。千曲市も絵本化の企画に賛同してくださり、出版に際しては教育委員会から推薦をいただきました。市内の全小中学校、幼稚園・保育園にも配本していただくことになっています。

▽単行本も

すずき先生は福島県伊達市のお生まれです。「ことわざ絵本」「いちりんじいこ」など多数の著書があり、海外でも人気があります。芭蕉をテーマにした作品はほかに、日本漫画家協会賞特別賞を受賞した「まんが紀行奥の細道」(上下巻)と、単行本「まんが 松尾芭蕉の更科紀行」があります。

単行本「まんが松尾芭蕉の更科紀行」は、「更科紀行」をすずき先生が独自の解釈で一八〇ページの読み物に展開したものです。芭蕉が当地に



やっつけて三百二十年となる節目の二〇〇八年に出版しました(さらしな堂発行、河出書房新社発売)。「更科紀行」の原文のほか芭蕉が「さらしな・姨捨の月」にあこがれた理由についての解説も掲載しており、「絵本でさらしな・姨捨に興味を持ったら、単行本も手に取っていただければ」とすずき先生はおっしゃっています。

すずき先生は以前から当地に縁の深い方でした。千曲市稲荷山地区の「ふる里漫画館」は、同地区出身の政治風刺漫画の第一人者、近藤日出造さん(故人)の功績も顕彰する公共施設ですが、すずき先生は近藤さんと交遊があった縁から、同館の設立に尽力なさいました。同館が企画した昨年の「月の都」まんがワークショップの講師を務めました(ワークショップの内容についてはシリーズ132参照)。千曲市の観光キャッチフレーズ「芭蕉も恋する月の都」と観光ロゴマーク「芭蕉三人衆」の制作者でもあります(同102参照)。

上の写真がすずき大和先生です。しなの鉄道戸倉駅の改札口に掲げられている千曲市の観光ロゴマークと一緒に撮影しました。右の写真は更級小学校(旧更級村、現千曲市更級地区)の図書館に設けられたすずき先生の著書を集めた本棚です。司書の細川まゆみさん(今春、千曲市立戸倉小に転任)が手にしているのが単行本「まんが松尾芭蕉の更科紀行」です。絵本「ぼしようさんとおぼすて山の月」の制作に際して、細川さん、伊藤可主也校長先生(同、安曇野市立穂高西小に転任)から貴重な助言をいただきました。絵本の発行元はさらしな堂、発売はしなのき書房。千曲市内はもちろん、全国の書店で買求めることができます。インターネットでも販売しています。

発行 二〇一一年 五月二十五日  
編集 さらしな堂  
(代表・大谷善邦)

〒三八九・〇八二三  
長野県千曲市大字若宮二一四・六  
(旧更級郡更級村)

## 松尾芭蕉と千曲市の縁の深さが絵本に



ぼしようさんと

おぼすて山の月

すずき大和